

第 50 号

令和8年7月15日発行

岐阜工業高等専門学校

教育後援会通信

編集：教育後援会事務局

ちから



入学式祝辞(ちから50号巻頭挨拶に代えて)

教育後援会会長 伊 藤 公 也

この春、新入生の皆さんが新たな岐阜高専での学生生活への第一歩を踏み出しました。入学式では、令和8年度教育後援会会長より新しい環境へ向かう学生たちへのエールとして、「自らも挑戦したい」と英語での祝辞が述べられました。

本日は新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましても、お子様のご入学を心よりお祝い申し上げます。新入生の皆さんはこれから新しいことにチャレンジするわけですが、私もこの祝辞を英語スピーチでチャレンジしたいと思います。聞きにくいことがあるかもしれませんが、チャレンジ精神ということで暖かい耳で聞いてください。

As of all the parents here, I would like to say congratulations to all the new students. Today is the start of a new chapter in your lives. As parents, we are very proud and happy to see our children take this big step. At the same time, we know that school will bring many challenges, new friendships, and important experiences for your future.

We would like to thank the principal, teachers, and staff for welcoming our children and supporting them. As parents, we will continue to support our children together with the school and the community. We hope the next five years will be meaningful and that you will learn and grow a lot. Thank you very much, and congratulations again.

教育後援会副会長挨拶

副会長 小川 治朗

このたび、教育後援会副会長を務めさせていただくことになりました小川と申します。歴史のある後援会の一員として関わらせていただくこととなり、大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。保護者の皆様には日頃より、高専活動や後援会の取り組みにご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。皆様の温かい支えがあってこそ、学生たちの学びや成長があると感じております。これからは、会長や役員の皆様と協力しながら、高専・地域・保護者の皆様をつなぐ役割を大切に、学生たちが安心して充実した高専生活を送れるような環境づくりに、少しでもお役に立てればと考えています。

教育を取り巻く状況は年々変化していますが、だからこそ、皆様とのつながりや支え合いがますます大切になっていると感じています。気軽に声をかけ合える、風通しの良い後援会の精神を受けつぎ、次代へ継承していけるよう、微力ながら貢献してゆきたいと心を新たにしております。今後、様々な後援会活動でうかがうことになろうかと思います。その際、ご質問などあればなんなりとおっしゃってください。

まだまだ至らない点も多いかと思いますが、温かく見守っていただければ幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

副会長 安田 千恵子

私が初めて岐阜高専を訪れたのが、中学生の次男と参加したオープンキャンパスの時でした。自由でありながらも規律を感じられる不思議な校風に、親子で魅了されたことを今でも覚えています。次男が念願の電気情報工学科に入学して早3年目。寡黙な次男から学校生活のことを詳しく聞くこともありませんが、空っぽになった弁当箱と、洗濯かごに山積みされた体操服や私服を手に取りながら、元気に通学できていることをありがたく思っています。しかし、入学時から変わらず、自由にのびのびと過ごしている次男をみて「自由な校風とはいえ、しっかり勉強しているのか、進路選択を意識できているのか」等、時折、不安に感じることも多々あります。

そんな不安に対し、後援会を通じて知り合った保護者の皆様、教職員の皆様からお聞きする経験談やアドバイスは、私自身の「わからない」状態を解消し、安心をもたらしてくれます。県内外、広域から学生が集まる高専だからこそ、保護者同士も「初めまして」であるケースがほとんどです。だからこそ、後援会を通じた出会いが大きな意味を持つと改めて感じています。今年度も、保護者懇談はじめ、後援会行事が多数計画されています。こうして出会えたのもご縁です。ともに語り合しましょう。

最後に、実りある活動のために、微力ながらお手伝いができればと思っております。ご協力よろしくお願い致します。

副会長 大野 めぐみ

先日、知り合いのお子さんが岐阜高専を卒業し、大学編入されました。そこで他の高専出身の学生とともに学ぶ中でまず感じたのは「岐阜高専での生活は自ら、または仲間と試行錯誤して、最適解を導き出す経験が圧倒的に多い」ということだったそうです。どうすればよいか、最短ルートは簡単には教えてもらえません。だからこそ、どの筋道で考えればよいのか自ら考えます。仲間と協力します。失敗しても、その経験やコミュニケーションスキルは自分の糧となって残ります。この5年間分の差は大きいのだそうです。

私自身は工学系の道を歩んでいないので、子どもたち二人が電子制御に関わる話をしてくても理解が難しいです。しかし、自宅のリビングで二人がレポートについて話し合っていたり、仲間と音声で課題につ

◀ いてやりとりしているのを聞いたりすると頼もしく感じます。一筋縄ではいかないことを学ぶ楽しさを感じているようです。もう親ができることは限られていますが、社会に出るまではできるだけのことをしていこうと思います。

また、毎年の高専祭も楽しみにしており、学科ごとの発表では、限られた条件の中でよくぞここまでと、創意工夫する姿に頭が下がります。高専祭で生き生きとした我が子の様子が見られることは、保護者としても大きな喜びだと思っています。今年度からは後援会役員の一人として微力を尽くします。どうぞよろしくお願いします。



岐阜高専に入学して

1 年 保 護 者

小学生の時から鉄道が好きだった娘。中学3年生になり、進路指導で頂いた岐阜高専のパフレットが入学のきっかけになりました。入試説明会での先生方の丁寧な説明と教育方針。オープンキャンパスでの先輩方の研究発表や、見学にきた中学生に丁寧に対応してくださる姿、公開講座での体験など、通えば通うほど岐阜高専で学びたいという思いが強くなったようです。親も説明会や高専に通うお子さんをお持ちのご父兄に話を聞き、高校3年間で大学受験対策として過ごすより、高専5年間で実践的に、自分の目標に向かって学びの時間を過ごしてほしいと考えようになりました。

1年生になり数日経ちましたが「中学校と違う授業スタイルや部活動など、私にはこちらのほうが合っていて楽しい」と話しています。忙しそうですが毎日明るい娘の声に親も岐阜高専を選んで良かったと感じています。5年間自分の夢に向かって、同じ志の仲間と学んでいってほしいと願っています。

息子の新たな挑戦を応援して

1 年 保 護 者

この春、息子は念願の高専に入学いたしました。幼い頃から工作が好きで、工具を手にも身近な物の制作に没頭する姿を見てきました。いつかものづくりの道に進むだろうと思ってはいましたが、自ら高専という専門性の高い道を選んだ志の高さには、親として驚きと頼もしさを感じています。入学と同時に始まった寮生活では、気の合う仲間に出会い、すぐに友人もできたようです。放課後には部活動も始め、毎日が充実している様子が伝わってきます。ただ、慣れない環境で緊張が続いたせいか、最近少し体調を崩してしまったようで、離れて暮らす親としては心配が尽きません。

これからの五年間、自分のペースを大切に、心身ともに健やかに過ごしてほしいと願っています。大好きな専門分野を楽しみ、一歩ずつ成長していく姿を温かく見守る所存です。ご指導くださる先生方や寮の皆様へ息子の成長を託し、私は帰省した際のお土産話を楽しみに待ちたいと思います。

国際交流室より

国際交流室長 柴田 欣秀

<校外でのイベント>

- ・海外インターンシップ(協定校での研修、専攻科1年、5Eの希望者、夏季休業中に実施)
- ・海外研修I(シンガポール研修、1~2年の20名、2027年3月実施予定)
- ・海外研修II(台湾研修、2~4年の30名、2026年8月17-22日)
- ・海外研修III(セブ研修、3~5年の20名、2026年9月6-13日)

<校内でのイベント>

- ・グローバルマインド養成に向けた講演会
(2026年7月3日 16時20分から、株式会社ShelterMate 小黒江莉果様)

「専門の力」×「デジタル技術」で、社会に新しい価値を創出できる技術者を育てるために

岐阜工業高等専門学校では、文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」を活用し、高度情報系人材の育成に向けた教育システム改訂の申請を予定しております。今回の改訂は、単にプログラミング、AI、データサイエンスなどの情報系科目を追加するものではありません。本校で学ぶ機械工学、電気情報工学、電子制御工学、環境都市工学、建築学といった専門分野を基盤としながら、デジタル技術やDX技術を活用して、社会の課題を解決し、新しい価値を創出できる技術者を育てることを目指すものです。



校長
大塚 友彦

既に、産業界では、DXによって新たな価値を生み出す取り組みが進んでいます。例えば、建設機械メーカーのコマツは、建設現場全体をICTでつなぐ「スマートコンストラクション」を展開しています。これは、ドローン等による3次元測量、クラウド上での施工データ管理、ICT建機による高精度施工などを組み合わせ、測量から施工、検査までの工程をデジタルで「見える化」する取り組みです。建設機械という「もの」を提供するだけでなく、建設現場全体をデジタルで再現・管理し、生産性や安全性を高める新しいサービスへと発展させている点に大きな特徴があります。

この事例が示しているのは、これからの技術者には、専門知識だけでなく、現場や社会の課題を深く理解し、必要なデータを集め、デジタル技術を活用して解決策を考え、それを製品やサービスとして社会に届ける力が求められるということです。本校が目指す教育課程の改訂も、まさにこのような高付加価値の新しいものづくりやサービスを生み出し得る人材を育てるためのものです。

そのためには、デジタル技術を扱う力だけでは十分ではありません。DXによって新しい価値を生み出すためには、課題の表面的な現象だけを見るのではなく、その背景にある本質を見抜く洞察力が必要です。また、実際に困っている人々の立場に立って考える当事者意識やユーザ目線、さらに地域社会、産業、環境、暮らし、倫理などを広く見渡す視野も欠かせません。こうした力を育てるうえで、教養教育の充実が極めて重要です。

本校では、教養を単に知識として学ぶだけでなく、実社会の課題に向き合う中で身につけることも大切にしたいと考えています。例えば、地域の困りごと、産業現場の人手不足、環境負荷の低減、安全性の向上、快適な生活空間の実現といった課題に取り組む際、学生は技術だけでなく、その課題がなぜ生じているのか、誰が困っているのか、どのような解決が本当に役立つのかを考える必要があります。このような学びは、教室で行われる教養教育とは一味違った、実践的な教養教育となります。

今回の改訂では、こうした学びを実現するため、座学科目を単純に増やすのではなく、教育内容を精査し、課題解決型学習、いわゆるPBLのようなフィールドワークをより重視していきます。学生が実社会の課題に向き合い、自分で考え、必要な知識や技術を調べ、試し、失敗から学びながら解決策を形にしていく学びを充実させます。

このような学びを通して、学生には「まだ教わっていないからできない」という受け身の姿勢を越え、必要なことは習っていなくても自ら学び、活用していく姿勢を身につけてほしいと考えています。科学技



④ 術の進歩が速い時代においては、学校で学んだ知識だけで一生対応できる訳ではありません。専門知識、デジタル技術、教養、そして自ら学び続ける姿勢を組み合わせることが、将来社会で活躍するための大きな支えになります。

また、DXによる価値創出とは、単なる効率化や自動化だけを意味するものではありません。人手不足、安全性の向上、環境負荷の低減、地域課題の解決、より快適な暮らしの実現など、社会が抱える課題に対して、専門技術とデジタル技術を組み合わせ、新しい解決策を提案することです。学生には、自分たちの技術によって誰が助かり、誰が喜び、社会にどのように貢献できるのかを考える経験を積んでほしいと考えています。

一方で、学生の学修負担にも十分配慮します。科目を純増するのではなく、内容を精査し、必修科目の単位数を適切に抑えながら、学びの質を高めていきます。あわせて、ロボコン、プロコン、デザコンをはじめとする各種コンテストや課外活動に取り組む時間も確保し、授業内外の学びが互いに高め合う教育環境を整えてまいります。

本計画は、令和9年度に高専機構の審査、令和10年度に文部科学省の審査を申請する予定で、現在準備を進めております。社会のニーズに応じた教育を取り入れることは、在校生一人ひとりの将来の可能性を広げ、社会で活躍する力を高める重要な取り組みです。

教育後援会の皆様におかれましては、本校の教育課程改訂の趣旨をご理解いただき、今後とも温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

教務主事挨拶

日頃より、本校の教育活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、学生の健全な成長と学習環境の充実のために、さまざまな場面でご協力いただいておりますことに、教務主事として厚く感謝申し上げます。

先日実施いたしました授業参観には、多くの保護者の皆様にご参加いただきました。ご多忙の中、学生たちが日頃どのような環境で学び、どのような力を身に付けようとしているのかを実際にご覧いただけたことは、本校にとって大変有意義な機会となりました。授業後にいただいたご意見やご感想は、今後の教育改善に活かしてまいります。学生たちにとっても、自らの学びに保護者の皆様に関心を寄せてくださっていることは大きな励みとなったことと思います。

近年、社会は急速な技術革新や人口減少、グローバル化の進展など、大きな変化の時代を迎えています。特に、ものづくり分野では、AI、データサイエンス、ロボティクス、カーボンニュートラルなど新たな技術への対応が求められており、実践的な技術者の育成がこれまで以上に重要となっています。そのような中、高等専門学校は、専門知識と実践力を兼ね備えた人材を育成する教育機関として、産業界や地域社会から大きな期待を寄せられています。

本校においても、専門教育の充実はもちろんのこと、課題解決能力やコミュニケーション能力、チームワークを育む教育活動を積極的に推進しております。また、企業や大学、地域との連携を通じて、学生が実社会との接点を持ちながら学ぶ機会を拡充し、将来の社会を支える技術者として成長できるよう取り組んでおります。

しかしながら、学生の成長を支えるためには、学校だけでなく、保護者の皆様との連携が不可欠です。学生生活や学習状況についてご家庭と情報を共有しながら、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばしていきたいと考えております。今後も授業参観や学校行事、保護者懇談会などへの積極的なご参加をお願い申し上げます。

本校はこれからも、地域社会や産業界の期待に応えられる人材の育成に努めてまいります。保護者の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、今後の保護者向け行事の予定をお知らせします。

高専祭:10/31,11/01 後期授業参観:11/27,30 キャリアプログラム:12/16 卒業式:3/19



教務主事
柴田 良一

総務主事挨拶

日頃より本校の教育活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。今年度、総務主事を拝命いたしました電子制御工学科の遠藤と申します。総務主事は今年度からの新たな役職となるため、その概要について簡単にご紹介させていただきます。

総務主事の所掌は、自己点検・評価の総括、広報（入試広報を除く）の総括、地域社会との連携の総括（研究主事の所掌に属するものを除く）、国際交流の総括、サイバーセキュリティへの対応などを担っております。

自己点検・評価では、今年度は国立高専教育国際標準（KIS）に基づく評価への対応、また来年度に予定されている機関別認証評価に向けて、本校の教育・研究活動の点検と改善に向けた取り組みを進めております。

広報活動や地域社会との連携においては、学生の活動や本校の取り組みを広く発信するとともに、地域との関係をより深め、学生にとって実社会とつながる機会の充実に努めています。また、学生のものづくりリテラシー教育実習への支援などにも取り組んでいます。

国際交流では国際交流室と協力し、海外提携校と連携した海外インターンシップや海外語学研修、学生交流の促進に取り組んでいます。サイバーセキュリティについては、安全な教育研究環境を維持するための体制整備と意識向上の推進を図っております。

このような取り組みを通じて、本校の教育・研究活動に貢献してまいります。引き続き本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



総務主事

遠藤 登

機関紙「ちから」50号の発刊、おめでとうございます

教育後援会の会員の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動、とりわけ学生たちの課外活動や福利厚生など、学生生活全般にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

このたび、教育後援会機関誌『ちから』が記念すべき第50号の発刊を迎えられましたことを、深くお慶び申し上げます。長年にわたり、本校と家庭を結ぶ大切な情報共有の場として、また学生たちの生き生きとした足跡を記録する媒体として、本誌を大切に育んでこられた歴代の役員・関係者の皆様のご尽力に、深く敬意を表します。

本誌のタイトルである『ちから』には、学校と保護者の皆様が手を取り合い、学生たちを支える大きな「力」にしていこうという、創刊当時の温かい想いが込められていると伺っております。学生主事として日々学生たちと接する中で、この教育後援会の皆様の「力」の有り難さを実感しない日はありません。

高専生活の5年間（専攻科を含めれば7年間）は、多感な時期であると同時に、大人への階段を上る極めて重要な期間です。本校の学生たちは、日々の厳しい学業に励む一方で、部活動や高専ロボコン、プロコン、デザインコンペティション、そして伝統の高専祭（令和8年10月31日～11月1日に開催）など、様々な課外活動に情熱を注いでいます。時には壁にぶつかり、葛藤しながらも、仲間と切磋琢磨して一つの目標を成し遂げていくプロセスこそが、彼らの主体性や協調性、そして折れない心を養います。このように、教室の机の上だけでは得られない「人間的な強さ」を育む環境を、物心両面から力強く支えてくださっているのが、他ならぬ教育後援会でございます。

学生主事のミッションは、学生一人ひとりが安心して充実したキャンパスライフを送り、自立した技術者、そして社会人として社会へ羽ばたけるよう見守り、導くことにあります。社会が激しく変化する現代において、学生たちが自ら考え、行動する「生きる力」を身につけるためには、時には温かく見守り、時にはそっと背中を押す、学校と家庭の緊密な連携が不可欠です。

この第50号という記念すべき節目を契機として、学生主事としてもより一層学生たちに寄り添い、安全で活気あるキャンパスライフの環境づくりに努めてまいります。会員の皆様におかれましては、今後とも本校の学生たちを温かく、時に頼もしく支える「ちから」として、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、教育後援会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご多幸、そして本校学生たちの今後の輝かしい飛躍を祈念いたしまして、第50号発刊に寄せる学生主事からのあいさつとさせていただきます。



学生主事

水野 和憲

高専を再評価

若鮎会会長 宇佐美 晃三

教育後援会の皆様には、岐阜高専や若鮎会の活動に対してご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。最近の新聞・テレビ等の報道では、AI(人工知能)に関する記事が載らない日はないほど注目されています。高専は不足が懸念されるAIや半導体などの産業を支える人材輩出機関として注目されています。

高専は即戦力となる技術者の養成を目的に、高度成長期の1961年度に制度化されました。中学校卒業後に入学する5年制の本科とその上に2年制の専攻科があり、全国で国公立立合わせて58校に約56000人が在籍しています。そして優れた「日本型教育」として、モンゴルやタイ、ベトナムでも導入されています。

文部科学省は、5年制の高専本科卒業生には現在「準学士」の称号を与えていますが、これを国際的に通用する学位とすることで日本独自の教育機関である高専の評価を高め、卒業生の活躍の場を広げる狙いがあるようです。また、高専に関する施策集で、現在は学校教育法で「教育」と規定されている高専の設置目的に、「研究」を加えることを検討しています。より高度な知識と技術を持つ卒業生が増えることで、即戦力の理系人材を求める産業界の要請に応えることが期待されています。高専制度が見直されている中、学生の皆さんには自らの能力と可能性を信じ、それぞれの目標に向かってさらに一層努力されることを期待します。

岐阜高専の卒業生「若鮎会」の会員も1万人を超えています。卒業生の力を結集して岐阜高専ここにありと発信していくとともに、岐阜高専生の活躍に大いに期待し、できる限りの応援をしたいと考えております。

編集後記

教育後援会事務局長 所 哲郎

令和7年度より大塚新校長、竹内新部長を迎え、学校の主幹会議メンバーも大幅に刷新され、新体制が動き出しました。教育後援会誌「ちから」では、昨年の48号と49号で主幹会議メンバーと同窓会「若鮎会」の宇佐美会長からご寄稿いただきました。教育後援会と同窓会と学校が相互に連携することで、より有益となる情報共有を可能としました。それらの最初の成果として、令和8年度教育後援会予算が5月16日の役員会、総会で確定しました。

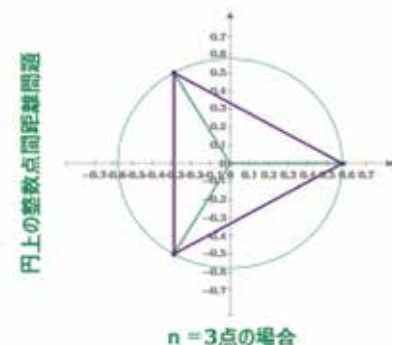
前年度までの役員会と総会の別日開催を午前・午後の同日開催とし、新一年生役員の役員会参加が可能となったため、役員会は例年の50%増しの参加となり、活発な意見交換・情報共有ができました。また、今年度の教育後援会予算を活用した学校側の新規教育支援項目として、低学年の学習サポートがICT教材の充実と学生による学習支援TA体制の充実が予定されています。

ちから50号からは電子発行のみになりましたが、引き続き教育後援会役員と保護者からの投稿、大塚校長、柴田教務主事、遠藤総務主事、および、水野学生主事からの寄稿、そして、宇佐美若鮎会会長からの寄稿、さらには保護者から最も質問が多い国際交流室からの柴田国際交流室長による日程情報等を含めています。また、今年も各務原市による保護者向け企業見学会のバス1台分の実施が予定されています。是非、色々な行事日程を把握され、保護者の皆さまの関心のある行事に積極的に参加されることを期待しています。

さて、滋賀県はじめ全国に県立高専構想が急速に立ち上がりつつあり、地域からの高専卒業生への期待は益々広がりつつあります。一方、AIの進展は目覚ましく、日本の国家予算規模のAI開発が世界中で展開されつつあります。例えば必要となる電源だけでも1GW単位となり、これは原子力発電所1基分に相当します。これだけの投資が世界中で続くということは、それ以上の人間による仕事がAIにより置き換え可能だと投資家が判断しているのだと思います。AIもやりたくない仕事をするのも人間の大切な活動ですが、AIを使って仕事をする人材を育てることも、少子化の続く先進国としては必須の課題だと思います。岐阜高専卒業生が後者になれる能力を5年間で育むことが高等教育機関の使命です。

右記は所がAIのCopilotとGeminiに相談しつつ解きつつある問題です。AI活用の実例としては極めて面白い課題だと思っています。ぜひ、皆さんも挑戦してみてください。

課題:半径 r の円周上に複数の点を置き、すべての点間距離が整数となる最小半径とその辺長を求めよ。なお、最初の点は $[r, 0]$ に取るものとする。4点の解を求めてください。次は5点、……の解です。あっという間に組み合わせ爆発が起こり、いかに探索するかが未知の問題です。例:2点の場合。 $[0.5, 0]$, $[-0.5, 0]$, $d_{12} = d_{21} = 1$ 。3点の場合。 $[0.577, 0]$, $[-0.289, 0.5]$, $[0.289, -0.5]$, $d_{12} = d_{23} = d_{31} = 1$ が答えです。



行事予定

◆教育後援会地区保護者懇談会（該当地域にてご参加下さい。）

●開催日	●地区名	●会場	●地域
11月7日(土)	愛知県	アイブラザー宮	愛知県全域
8日(日)	滋賀県	彦根勤労福祉会館	滋賀県全域
14日(土)	岐阜 飛騨	本 校	岐阜・各務原・山県・羽島市・羽島郡・愛知・滋賀・長野・三重県以外の県外、専攻科 高山・飛騨・下呂市・大野郡
15日(日)	東濃	瑞浪市産業振興センター	多治見・中津川・瑞浪・恵那・土岐市・長野県
28日(土)	美濃・可茂 西濃	関市文化会館 本 校	関・美濃・美濃加茂・郡上・可児市・加茂・可児郡 大垣・瑞穂・本巣・海津市・養老・安八・不破・揖斐・本巣郡・三重県

◆主な学校行事予定

6月17日(水)	東海地区高専体育大会壮行会	
6月20日(土)～11月8日(日)	第64回東海地区国立高等専門学校体育大会	
20日(土)	学級保護者懇談会(1～4年) 寮生保護者懇談会	
7月15日(水)	全寮総会	
21日(火)～22日(水)	中学生向け授業公開(入試広報関係行事)	
27日(月)～30日(木)	前期期末試験(専攻科)	
29日(水)～8月 5日(水)	前期期末試験(本科)	
8月 7日(金)	閉講(本科・専攻科)	
8日(土)～9日(日)	オープンキャンパス	
9日(日)	閉寮(本科・専攻科)	
10日(月)	夏季休業始(本科・専攻科)	
10日(月)～14日(金)	夏季一斉休業	
21日(金)～1月9日(土)	第61回全国高等専門学校体育大会	
9月 2日(水)～4日(金)	第33回全国高専将棋大会(秋田)	
5日(土),10月 3日(土)	入試説明会(入試広報関係行事)	
11日(金)	一斉休業(停電・断水)	
11日(金)	各務原市高専保護者向け企業見学会バスツアー(各務原市主催)	
17日(木)	夏季休業終(本科),開寮(本科・専攻科)	
18日(金)	開講(本科)	
30日(水)	授業後終業式,閉講(本科),夏季休業終(専攻科),前期終,全寮総会(本科・専攻科)	
10月 1日(木)	後期始,開講(本科・専攻科)	
10日(土)～11日(日)	第37回全国高専プログラミングコンテスト本選(香川)	
18日(日)	全国高等専門学校ロボットコンテスト2026東海北陸地区大会(鳥羽)	
22日(木)～11月1日(日)	学級個人懇談会週間(1～4年)	
30日(金)	休講(高専祭準備、本科)	
31日(土)～11月1日(日)	高専祭公開日	
11月 2日(月)	休講、高専祭後片付け	
7日(土)～8日(日)	第23回全国高等専門学校デザインコンペティション(函館)	
10日(火)～13日(金)	4学年研修旅行	
11日(水)	3学年研修旅行	
15日(日)	全国高等専門学校ロボットコンテスト2026全国大会(国技館)	
12月 3日(木)～9日(水)	後期中間試験(1～4年)	
16日(水)	1～4年キャリアプログラム,専攻科・大学編入学ガイダンス(本科)	
16日(水)	全寮総会・寮生忘年会(本科・専攻科)	
25日(金)	授業終了後大掃除、学級指導、(本科)閉講(本科・専攻科)	
26日(土)	閉寮(本科・専攻科)	
28日(月)	冬季休業始(本科・専攻科)	

第64回東海地区国立高等専門学校体育大会
6月20日(土)～11月8日(日)
主管校:鈴鹿工業高等専門学校

第61回全国高等専門学校体育大会
8月21日(金)～令和9年1月9日(土)
主管校:鈴鹿工業高等専門学校

*上記行事予定は6月末時点でのものです。詳細・変更等については岐阜高専ホームページ「年間行事予定表」等で確認ください。

発行：岐阜工業高等専門学校・教育後援会事務局

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236-2 TEL.058-323-8752 FAX.058-322-6571

URL : <http://www.gifu-nct.ac.jp/kouenkai/> MAIL : gnctk@iaa.itkeeper.ne.jp